

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 8 日作成)

| | | |
|------------------------------|--|-------------------------------|
| 小委員会名 | 集合住宅の遮音性能水準検討小委員会 | 主 査 名：岩本 毅 就任年月：2011 年 4 月 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 環境工学委員会 (音環境運営委員会) | 委員長名：砂土原 聡 主 査 名：濱田 幸雄 |
| 設 置 期 間 | 2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月 | |
| 設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 負荷騒音・暗騒音の大きさをパラメータとした遮音性能評価水準，評価手法の構築 ・ 集合住宅に暮らすための社会的共通認識を確立するための情報発信 ・ | |
| 委員構成 (委員名 (所属)) | 委員公募の有無：無 | |
| | 主査：岩本毅 (三井住友建設) 幹事：小林秀彰 (三井住友建設) 委員：濱田幸雄 (日本大学)，羽染武則 (東急建設)，田端淳 (大成建設)，古賀貴士 (鹿島建設)，大脇雅直 (熊谷組) 坂口紳一 (東海興業)，山下恭弘 (信州大学)，坪井政義 (大林組)，藤本一壽 (九州大学)，大内孝子 (東京都市大学) | |
| 設置 WG (WG 名：目的) | | |
| 2012 年度予算 | 57,000 円 | ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス： |

| 項 目 | 自己評価 |
|--|--|
| 委員会開催数 | 7 回 (年度内計画を含む) |
| 刊行物 (シンポジウム資料等は除く) | |
| 講習会 | |
| 催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画 | |
| 大会研究集会 | |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等 | |
| 目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係) | 1. 新旧の集合住宅における生活騒音の比較を行い室内の静謐性の変遷に関する検討を行った。 2. 実建物における室内発生騒音の測定を実施し，総プロで行われた TNEL 指標との比較を実施した。 |
| 委員会活動の問題点 ・ 課題 | |

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2012 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

| 総合評価 (4 段階評価) | A | B | C | D |
|--|--|---|---|---|
| 総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等) | <p>本小委員会は集合住宅の床衝撃音、室間遮音および交通騒音等の外部発生騒音と建物内発生騒音に対する居室における発生騒音（以下室内騒音）に関して、遮音性能評価水準を検討、提案し、実務で生じる苦情等の是非に対する判断基準の目安として活用できるようにすることを目的としている。</p> <p>1. 室内暗騒音調査（2009,2010） 集合住宅室内の暗騒音の現状を把握するために日本建築学会関係小委員会および関連学会の研究部会のメンバーにアンケート調査を実施した。結果の一部については「集合住宅の室内環境音レベルの現状について－遮音性能評価水準の構築に向けて－」と題して大会で発表を行った。</p> <p>2. 室内騒音調査（2011, 2012） 集合住宅の室内における発生音の騒音事例調査については、歩行音、木製建具、アルミ製建具、玄関扉、給排水等について隣戸からの騒音データを委員より提出いただいた。また、1970年代半ばの同様な測定データも入手し、これらとの比較によって現在の集合住宅の静ひつ性がどの程度向上しているかの検討を行った。 また、実際の住宅において住戸内騒音を24時間連続して計測し発生騒音の変動を見ると同時に1975～77年度に実施された総合技術開発プロジェクト住宅性能総合評価システムの開発の中での騒音評価指標として検討された全騒音暴露量 TNEL（Total Noise Exposure Level）での比較を行った。 これらのデータは今後の室内騒音レベルの規準を検討する上で重要なものであり、2013年度の大会 OS で発表を行う予定である。</p> | | | |

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。